

国家試験支援への Google Apps の活用

都築 英明

看護学部

国家試験支援は本学の重要な教育活動の一つである。各学部それぞれに模擬試験、個別指導、集中セミナー、グループ学習など行っている。国家試験勉強が近づくと、学生は不安感や孤独感が募り、学習に集中できなくなることがある。教員としては、学生に向けていつも寄り添っているというメッセージが大切となる。このような観点から、Google Apps のアンケート機能（フォーム）を利用して、看護師国家試験の過去問題を毎日、5 問ずつ電子メールで送付し回答させ、正解状況をフィードバックした。

Web ベースの過去問題練習サイトも利用できる環境にあるが、利用頻度は高くない。いつでも使えることがかえって積極的な利用につながっていないことがうかがわれる。毎日 5 分程度で回答できる程度の過去問題を提供することで、日常の学習状況を自己確認することができ、また、教員から決まった時刻に送信される電子メールが、学生の規則正しい生活の一助となることも期待される。

Google Apps を利用することで、使用した問題を同じく Google のホームページ（サイト）に掲載することで、学生が振り返ることができるとともに、次年度の学生の自己学習に利用することができる。

入学前教育の取り組み

都築 英明¹⁾，鳴瀬 善久²⁾，梅田 雅宏³⁾，廣瀬 英司⁴⁾，渡邊 康晴³⁾，河合 裕子³⁾

¹⁾ 基礎看護学講座，²⁾ 自然科学ユニット，³⁾ 医療情報学ユニット，⁴⁾ 解剖学ユニット

大学入学者選抜、入学前教育、初年次教育等、高大接続に関する改革が広がっている。本学においてもそれぞれ取り組んできたところであるが、入学前教育については今年度初めて、入学予定者をキャンパスに招いて勉強会を開催した。従来は自宅へ教材を郵送することで学習意欲の向上と学習習慣の維持を図ってきたが、キャンパスでの指導により、自宅学習では測れなかった学力を知ることができ、直接学習の心構えを説くことができるなど、得るものが大きかった。また、保護者との面談も同時に行うことができ、生活、学習面での不安を和らげることもできた。

講義前と講義後に簡単なテストを行ったところ、講義前の平均点では、数学 70.1 点、生物 18.3 点であり、講義後では、数学 6.6 点、生物 20.1 点の向上が見られた。数学と生物では、テストの難易度の差が大きかったように見えるが、むしろ高等学校における生物の選択状況が反映されたものと推察された。

早い段階での学力把握は、効果的な初年次教育につなげることが期待され、また、AO 入試や推薦入試など進路が早く決まった学生の学習意欲向上に有効であると思われる。